

〈授業内支援者の配置例〉

支援内容	概要
a. ノートテイカーの配置	講義時に教員が話した内容を専用用紙にペンで書きとったり、レジユメに書き込んだりする支援です。教員の話のを要約し、周囲の音などもリアルタイムに文字にして伝える『筆記通訳』です。通常2名以上で交代して行います。同時に複数名履修している場合は、ノートをOHCで写してモニターに表示します。
b. パソコンテイカーの配置	講義時に教員が話した内容をパソコンで入力する支援です。IPトークやT-TAC Caption2、てくてくノート等の専用ソフトを使って2名以上で連携して入力を行います。授業中の音声情報を要約しながら、できる限り早く文字にしてパソコンの文字入力を利用して情報を伝えます。
c. UDトーク修正者の配置	「UDトーク」という自動音声認識アプリを使用して文字化した情報を見て、誤変換や不足している情報を修正、補足します。教室内で授業を聞きながら、パソコンやスマートフォンを使って修正できます。
d. ポイントテイカーの配置	聴覚障害、肢体障害、書字障害等でノートの書き取りが難しい学生のために、講義時に教員が話した内容について、板書や重要なポイントをノートやレジユメに書き取る支援です。ノートテイクとは違い、1人体制でサポートに入ります。各利用学生のニーズによりテイク方法は違いますが、わかりやすくノートをまとめることが重要です。必要な場合には、感想レポートや小テスト等の代筆・代理入力を行うこともあります。
e. 手話通訳者・要約筆記者の配置	聴覚障害などで音声を聞いて理解することが難しい学生のために、学外の手話通訳者や要約筆記者を派遣しています。(派遣回数に上限あり)
f. リーディングサービス支援者の配置	視覚障害で板書や資料を読むことが難しい学生のために、授業に同席して板書や資料を読み上げたりする支援です。
g. ガイドヘルプ支援者の配置	授業の間の教室移動の際に歩行介助や誘導を行います。
h. 授業内介助支援者の配置	授業内の物の出し入れ、資料をめくる、パソコン操作補助などを行います。